

科目名	スポーツ
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	篠田浩子
授業の概要及びテーマ	適切なスポーツ・運動習慣や合理的な身体技法を身につけることは生涯にわたる健康生活の基盤となり、人間の生き方そのものにおいて重要な意味を持ちます。本講座では筋反射や身体運動学の科学的な基礎やエビデンスに基づいたコンディショニングやエクササイズ、あるいはスポーツの基本となる「走る・跳ぶ・投げる」など多角的なアプローチにおいて実習します。それらの経験の中で仲間と協力し、多面的な身体運動の意味を理解し、様々な場面に対応できる技術の習得によって個々の身体状況に応じたマイスタイルの生涯フィットネス・生涯スポーツを実践し、継続する能力を養うことを目的とします。 そこで、主に以下のテーマを中心に授業を展開したいと思います。 1. 自分自身の身体に「気づく」…日常生活の身体活動の偏りやスポーツ・運動歴による筋のアンバランスなどの障害リスクのチェックや対処と他者とのコミュニケーション能力としての身体技法の習得 2. 客観的なデータに基づき、各個人の体力やそれぞれの課題に適した運動方法や技術を選択・実践する能力を身につける…「マイ・スタイル」の運動実践方法の習得 3. 日常生活の中で継続可能な適切な身体技法や運動習慣をプログラミングできる…さまざまなスポーツや運動の基礎につながる簡単なリードアップゲームやフィットネスゲームの実践と習慣化 ※ この授業では特定の各競技スポーツ種目を行うことはありません。低体力の方やこれまでにスポーツ経験や運動経験の少ない方でも取り組める内容を中心に構成されています。
達成目標	・ 自分自身の身体の状態や個人差を認識し、各個人に適切な運動方法を選択的に行う能力と技術を身につける ・ 筋反射や機能解剖・筋生理等に基づいた各運動の意味や運動実践のポイントを理解し、目的に応じた運動方法を見出せる ・ 各コンディショニングやエクササイズの目的や適切な方法について、他者との協力やコミュニケーションを通して、日常生活や各人生ステージにおいて応用してプログラミングし継続的に持続できる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う
授業計画	01 ガイダンス、アイスブレイキングゲーム、身体のアライメントチェック（１）（静止状態で体の歪みチェック）と対処法 02 ウォーミングアップの基本、簡易体力測定（１）「４色の運動」実践（１） 03 「４色の運動」実践（２）、ウォーキング・ランニングの基本、３段階の歩幅・歩速測定 04 ウォーキング・バリエーション（雪道・坂道歩き、リズム・ウォーキング）・障害予防コンディショニング（スクワットの基礎、コアトレーニング等）、おにごっこバリエーション 05 リズムウォーキング（１）障害予防コンディショニング（コアトレーニング他）、伴歩/伴歩、他 06 伴歩/伴歩、ブラインドワーク（１）リズムウォーキング（２）障害予防コンディショニング（コアトレーニング他） 07 ※ブラインドワーク実習（２） ボール運動の基本（１） 08 リズムウォーキング、スーパーサーキットトレーニング（１）ボール運動の基本（２） 09 ボクシングエアロ（１）リードアップゲーム（１）：セストボール他 10 ボクシングエアロ（２）リードアップゲーム（２）：セストボール他 11 オリエンテーリング説明 リードアップゲーム（３）：セストボール他 12 スーパーサーキットトレーニング（２）軽スポーツ（１）変形ドッジボール他 13 ※オリエンテーリング実習（戸外）、お土産エクササイズ「エッセンシャル 10」 14 軽スポーツ（２）変形ドッジボール他、「エッセンシャル 10」 ※オリエンテーリング実習予備日（戸外） 15 簡易体力測定・「エッセンシャル 10」 16 期末試験 ※ オリエンテーリングやブラインドワーク他、NID ホールの使用可否や天候や条件によって前後したり、変更したりする場合があります。
成績評価基準	授業の中で行われる確認テスト（実技含む）：20%、授業への参加態度・意欲、貢献度 30%、課題提出物：20%、期末試験：30% 2/3以上の授業出席者のみ単位付与を検討します。 無断で授業の場から離れた場合は出席不正扱いとなります。（体調不良などでやむを得ず、授業の場を離れた場合は必ず教員に声をかけてください。）
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業時に資料を配付します。配付した資料はファイルなどを準備して毎回持参してください。
参考書・参考資料等	
用具	（各自で用意するもの） 室内運動靴、運動着（ジーンズ不可）、大きめのタオル、補給用水分、着替え、各回で指定された準備物
履修制限等	定員は原則 80 名とし、希望者多数の場合は抽選などで履修者を決定する。
履修希望者への要望・事前準備	日ごろから適切な体調管理を行い、運動レベルについては各個人の体力などに考慮して無理のないように調整して授業に参加してください。
実務経験を活かし た授業	健康運動指導士、全米ストレngth&コンディショニング協会認定スペシャリストの有資格者として、行政連携プロジェクトなど地域で子ども～中年、中高生などのスポーツ・運動指導と指導プログラム開発を行う教員がその実践経験を活かして生涯に亘って健康・スポーツを行う知識と能力を身につけるための実習を行う。

科目名	保健体育講義
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	篠田浩子
授業の概要及びテーマ	古来より人間は身体を媒体とし「動く」ことで他者や世界と関わり、生涯にわたって身体として動くことを宿命づけられてきました。身体運動の質・量が大きく変化した現代においては生活習慣病を始めとする健康阻害が大きな問題となり、私たちの「生きる力」を脅かしています。本講座では氾濫する巷の情報に惑わされることなく、生涯にわたる健康生活を実現するための科学的な知識や方法、戦略について解説していきます。また、その上で運動やスポーツを多面的な視野から検討し、他者や社会との有機的な関わりを見据えた健康・体力増進向上のためのライフスタイルに応じたスポーツ・運動実践のあり方について検討します。
達成目標	・ 現代における生活習慣病や健康阻害と運動との関係について理解し、それを解決するための科学的知識を身につけ、適切に応用することが出来る。 ・ 骨格筋の構造やトレーニングの理論や実践方法の基礎を学び、自らの運動習慣について見直しライフスタイルに応じた持続可能な運動プログラムを作成・実践することができる。 ・ 身体の「適応」として捉えられる「体力」について、他者との共生や自らの習慣・生き方と併せて深く考察し、自らの「生きる力」の向上へとつなぐことが出来る。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う
授業計画	01 ガイダンス、「スポーツ・運動と身体文化」 ～人間にとって「動く」とは何か～ 02 現代の生活と運動・スポーツ ～「便利さ」と引き換えに失った身体の教養と生体リズム～ 03 発育・発達と運動 ～ ライフスタイルに応じたスポーツ・運動習慣の設計～ 04 健康阻害と運動・栄養・休養のバランス ～お相撲さんに糖尿病が多いのは何故～ 05 生活習慣病と運動～「寝ない・食べない・運動しない」が脂肪代謝を悪くする 06 身体組成と運動の効果 ～動きやすい体・理想的な体格をつくる～ 行動変容グループワーク1 07 ロコモティブ・シンドロームと運動習慣 ～カルシウム剤を飲むだけでは骨は強くない～ 08 ～体力要素：「4色の運動」とは？～あなたに足りない色の運動はどれ？～ 09 骨格筋の構造と働き1 ～ヒラメの白い筋、マグロの赤い筋の違い～ 行動変容グループワーク2 10 骨格筋の構造と働き2 ～足の指が開かないと躓きやすくなる訳…キネティック・チェーン～ 11 トレーニングの理論と実践1 ～筋トレの回数を増やすと筋力は上がらなくなる？～ 12 トレーニングの理論と実践2 ～休みをとる戦略：「スプリット・ルーティン」、「インターバル」～ 行動変容グループワーク3 13 スポーツ・運動とリスクマネジメント1：日常生活における姿勢・動作と障害リスク、熱中症予防他 14 スポーツ・運動とリスクマネジメント2：特殊環境・条件での対応「その時あなたは？」 15 生涯スポーツ・体育と「生きる力」 ～ソーシャルキャピタルと地域で行う運動・スポーツの可能性～ 16 期末試験（※パレット上で行う場合もあります）
成績評価基準	授業の受講態度・意欲 10%、各講義時の課題 20%、期中に行うグループワーク等課題レポート 20%、試験 50% 但し、単位修得には全体の2/3以上の出席を前提条件とします。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業内でプリント類を配付する他、適宜指示します
参考書・参考資料等	
用具	授業時にその都度指示します
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業で学んだことを自らの生活習慣に反映させ、適切な運動プログラムの作成や生活改善についてチームで取り組むようにつとめてください。また、それらを個々のライフスタイルの中で工夫して実践・継続することでより良い身体環境を実現し「より善く生きる」ための糧としてください。
実務経験を活かした授業	健康運動指導士、全米ストレngth&コンディショニング協会認定スペシャリストの有資格者として、行政連携プロジェクトなど地域で子ども～中高年、中高生などのスポーツ・運動指導と指導プログラム開発を行う教員がその実践経験を活かして健康管理維持や身体活動・運動実践に関する生涯学習能力を身につけるための講義を行う。

科目名	社会心理学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎天野美穂子、大野志郎
授業の概要及びテーマ	社会心理学は、社会的状況における人の心理や行動を研究対象とする学問です。たとえば、「人を説得するにはどのようにすればよいのか?」、「流行はどうやって生まれるのか?」、「インターネット上で匿名で発言すると本音が出やすいのはなぜか?」というような、私たちにとって身近な問題が研究の関心となっています。本講義では、社会心理学の基本的な概念やその実験例、応用事例を順次紹介し、これらの知識の取得によって、自己のより深い理解やさまざまな社会問題の分析・理解に役立つ能力を養うことを目指します。
達成目標	・社会心理学の基本的な用語・概念を理解し、説明できる。 ・社会心理学の知識の習得によって、身の回りの出来事や社会状況・問題を分析し、理解することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 授業ガイダンス～社会心理学とは 02 自己 03 社会的認知 04 態度 05 対人行動(1) 06 対人行動(2) 07 対人行動(3) 08 集団(1) 09 集団(2) 10 マス・コミュニケーション(1) 11 マス・コミュニケーション(2) 12 インターネット・コミュニケーション 13 消費者心理 14 文化と心理 15 まとめ
成績評価基準	毎回の講義時に提出する小課題／コメントシート(40%) 期末課題(60%)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。
参考書・参考資料等	社会心理学キーワード 山岸俊男編 有斐閣 1,900円(税抜)
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義では、受講生に意見を求めたり、エクササイズの時間を設けながら進めていきます。講義への意欲的な参加を希望致します。
実務経験を活かした授業	

科目名	日本文化論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	黒川廣子、◎岡本明子、薩摩雅登、芹生春菜
授業の概要及びテーマ	近年グローバル化が進む中で、世界における日本の文化の特徴とは何かを把握するためのテーマを概説し、現代日本の文化に対する理解を促します。 日本は時代ごとに海外の影響を受けながら発展を遂げて、文化的に独特な現象を形成してきました。現代日本文化に影響を与えている複数の異質の文化がダイナミックに融合して文明として成立した事例を挙げて、文化と文明について考えます。古代より日本に最も大きな影響力を及ぼした大陸伝来の仏教について、主に尊像を中心にその形と意味、材質や技法の変遷と表現との密接な関係と、歴史の中でどのような祈りが像に込められたかを考えます。絵画を中心に、大陸文化の伝播とその日本化（和様化）の視点からみる古墳壁画、日本を描くやまと絵、異国・異界の表現、浮世絵に見る西洋文化との出会いやジャポニズムと呼ばれる西欧から見た日本文化を絵画作品を通して概観します。また、古代からの年中行事や生活文化、三道と呼ばれる芸道などに見られる現代に通じる諸要素を探ります。開国に伴う変革、そして高度経済成長期に、近代ヨーロッパおよび現代アメリカから大きな影響を受けつつも、東京オリンピック、日本万国博覧会（大阪）などを経て、現代につながる日本文化を形成したこの重要な時期を、芸術、文化、衣食住など様々な側面から探ります。
達成目標	国際的な視点から見た日本文化のあり方を理解できる。 現代まで受け継がれている日本文化における「美」の感性を考察できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／造形力／構想力を養う授業
授業計画	01 序論 文化と文明 02 総論：日本文化への唐文化の影響 神社と寺の違い 03 総論：日本文化への西洋文化の影響 日本の近代化 04 仏教美術の受容と展開1 仏像の誕生と伝来 05 仏教美術の受容と展開2 仏像の儀軌と技法 06 仏教美術の受容と展開3 イメージの伝播 07 仏教美術の受容と展開4 「和様」の成立 08 大陸文化への憧れ1 古墳壁画の伝存と保存 09 大陸文化への憧れ2 日本の風景を描く、異国の景色を描く 10 西洋文化との交流1 浮世絵に見るヨーロッパ 11 西洋文化との交流2 ヨーロッパの中の日本美術 12 開国に伴う文化の激変 13 年中行事の彩り 14 生活を彩る文様やかたち 15 三道（茶道・華道・香道）の工芸 16 試験 ＊ 担当教員 講義 01-03は薩摩、04-07は芹生、08-11は岡本、12-15は黒川 ただし、この順序で進めるとは限りません。
成績評価基準	授業態度 60%、試験 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	随時資料を配付
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業を土曜日に開講することがあるため、日程をよく確認したうえで履修を判断すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	瀧本 みわ
授業の概要及びテーマ	授業では、古代から20世紀に至る西洋美術史において重要な作例を、毎回一つとりあげ、その造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討し、作品の美術史的意義を考察する。そして、技法、様式、図像といった美術史の基礎知識や方法論を学びながら、イメージを取り巻く様々な問題を提起し、作品を分析する力を修得する。
達成目標	様々な時代、技法、主題の美術作品に触れ、美術史的な鑑賞方法を修得する。西洋美術史の基礎知識や方法論をもとに、多角的な視点から美術作品について考察を行い、作品の主題やその解釈を人に伝えることができるようになることを目標とする。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／造形力／構想力を養う授業
授業計画	01 ギリシャ神話と陶器画：エクスセキアス《アキレウスとペンテシレイア》 02 古代ローマの壁画：《ポリュフェモスとガラティア》 ポスコトレカーゼ、アグリッパ・ポストゥムスの別荘 03 初期キリスト教のモザイク画：ラヴェンナ、サン・ヴィターレ聖堂 04 ロマネスクの聖堂彫刻：モワサック、サン・ピエール修道院聖堂 05 ゴシックのステンドグラス：シャルトル大聖堂 06 国際ゴシックの写本挿絵：ランブール兄弟《ベリー公のいとも豪華なる時祷書》 07 中世末期のタピスリー（織物）：《貴婦人と一角獣》 08 ルネサンスの黎明：ジョット《死せるキリストへの哀悼》 バドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂 09 初期ネーデルラントの祭壇画：ロバール・カンパン《メローデ祭壇画》 10 北方ルネサンスの銅版画：デューラー《メランコリア》 11 システィーナ礼拝堂の壁画：ミケランジェロ《創世記》 12 近代都市の絵画：マネ《フォリー・ベルジェールのバー》 13 観相学と美術：ドガ《14歳の小さな踊り子》 14 ジャポニスムとポスター芸術：トゥルーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュ》 15 モードと美術：マリアーノ・フォルチュニ《デルフォス》
成績評価基準	成績評価は、毎回授業の最後に提出するリアクションペーパー及び期末レポートによる。出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	毎回の授業で、参考文献リストを含めた資料プリントを配付する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	美術史は、過去の芸術作品を理解するための学問であるばかりでなく、現在の私たちの身近に氾濫するイメージの意味やメッセージを読み解く鍵を与えてくれるものである。よって、ものづくりに携わる一個人としての視点を持ちながら、授業で紹介する作品と向き合い、美術史の魅力を味わってもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	環境と社会
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	水流 潤太郎
授業の概要及びテーマ	デザインは生活や社会をよりよくすることを志向しています。したがって、およそデザインに関わる者は、地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題に関心を持ち、自らの考えを深めることが大切です。 この講義では、まず地球環境分野の3大課題である脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会についてとりあげます。さらに後半では、サステナブルな社会に向けて同じく早急な対応が必要となっている、人口減少社会への対応や地方創生、財政健全化の課題も取り上げます。 地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題は、私たちの生活行為や経済活動が引き起こしたものです。講義では、問題が深刻化するに至った原因やメカニズムを探りながら、技術の開発・普及、社会システムやライフスタイルの変革など、問題克服に向けた取り組みについて学びます。
達成目標	・地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題について、基礎的な知識を身につけ、概要を説明することができる。 ・地球環境問題等を自らの問題として自覚し、身近な生活行動や経済活動に関連付けながら、問題の克服に向けた取り組みについて自分の考えを簡潔に論述できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 社会の持続可能性を脅かす諸問題 02 地球温暖化～「脱炭素社会の構築」～ 03 省エネルギー 04 再生可能エネルギーの開発・普及 05 二酸化炭素の森林吸収 06 対策手法の類型(規制的手法、経済的手法、情報提供等) 07 廃棄物の増大、資源の枯渇～「循環型社会の形成」～ 08 生態系や生物多様性の毀損～「自然共生社会の実現」～ 09 社会問題解決に向けたデザインの領域拡大 10 人口減少、少子高齢化 11 地方消滅～「地方創生」～ 12 リノベーションまちづくり 13 観光まちづくり 14 財政危機～「財政健全化」～ 15 まとめ(未来の選択に自覚を持つ)
成績評価基準	成績は、出席率3分の2以上を前提に、課題レポートをもとに評価します(課題レポート100%)。 ・課題は初回の授業で提示するとともに、最終回の授業で再度説明します。 ・レポート提出期限は最終回の授業の1週間後とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業ごとにプリントを配付します。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	社会の持続可能性の問題は、「あちら立てればこちら立たず」、「まだ大丈夫だろうから先送り」の構図にはまっています。若い先の長い、若いジェネレーションほど重大な影響を被る問題ですので、皆さん、関心を強めて下さい。
実務経験を活かした授業	国及び国立研究所並びに自治体で政策の企画立案に携わってきた経験を持つ教員が、社会問題の発生要因・メカニズムをひもときながら、その解決に向けて政策がどのように組み立てられているかについて講義する。

科目名	地域文化論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎田中洋史、田邊 幹、筑波匡介
授業の概要及びテーマ	「地域」には、それぞれ、豊かな自然と、人びとの暮らしの移り変わりを伝える「歴史」や「文化」があります。本講義では、長岡造形大学が所在する新潟県・長岡市を中心に、「地域」で積み上げられてきた固有の「歴史」と「文化」をともに学んでいきます。 全15回の講義は、人物、地名、古文書、食べ物、景観、建造物、自然災害、戦災など、地域に由来する様々な情報をもとに進めていきます。講義のテーマは、大きく分けて次の3つです（各講義のタイトルは授業計画を参照）。①前近代の新潟県・長岡市の歴史・人物と地域文化、②自然災害と地域文化、③近現代の新潟県・長岡市の歴史・人物と地域文化。 新潟県出身の歴史地理学者・吉田東伍（1864-1918）は、「郷土の地理、郷土の歴史というものはとりもなおさず、郷土の未来に向かってその応用を待つのものである」と述べています。本講義で学んだ、「地域」の「歴史」と「文化」に関する様々な事柄を、自らの専門領域や将来の生活の中で役立ててほしいと考えています。
達成目標	（1）新潟県・長岡市の歴史と文化を知ること。 （2）自己の生まれ育った地と新潟県・長岡市の違いなどを講義やレポートをとおして語れること。 （3）新潟県・長岡市で育まれた地域の歴史と文化を、自らの作品や活動にどう活かせるかを模索すること。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 地域文化論の序の序～新潟県・長岡市の歴史と風土～ 02 蔵王堂城から長岡城へ 03 城下町長岡と村の食文化 04 戊辰戦争 05 中越大震災と災害復興・地域振興～山古志の事例から～ 06 中越大震災と文化財・博物館 07 中越沖地震と災害復興・地域防災～柏崎の事例から～ 08 信濃川・長生橋と長岡の花火 09 井上円了の妖怪学 10 絵葉書が語る近代 11 長岡市公会堂と戦前の市民活動 12 長岡空襲と戦災復興 13 36 豪雪・38 豪雪 14 中越大震災・東日本大震災の記録と記憶 15 地域文化論の視点～（続）新潟県・長岡市の歴史と風土～ ※担当教員 講義 01、02、03、08、11、12、14、15 田中洋史 講義 04、06、09、10、13 田邊幹 講義 05、07 筑波匡介
成績評価基準	授業態度（10%）、レポート（90%）
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	随時、資料配付
参考書・参考資料等	『ふるさと長岡のあゆみ』（長岡市、1986年）、『長岡の空襲』（長岡市、1987年）、『ふるさと長岡の人びと』（長岡市、1998年）、『長岡歴史事典』（長岡市、2004年）、『長岡市政100年のあゆみ』（長岡市、2006年）、『郷土長岡を創った人びと』（長岡市、2009年）、『知っておきたい新潟県の歴史』（新潟日報事業社、2009年）、『語りつぐ長岡空襲－長岡戦災資料館十周年記念誌－』（長岡市、2013年）など。
用具	筆記用具。その他、必要な場合は随時指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	（1）地域の図書館・博物館・美術館を訪れ、読書や鑑賞をとおして、地域の歴史と文化に興味を持ってほしい。 （2）自らの出身地と新潟県・長岡市を比較し、その違いや共通点を様々な視点から考えていくという姿勢で講義を受けてほしい。
実務経験を活かし た授業	

科目名	文化人類学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	板垣順平
授業の概要及びテーマ	ヒトの暮らしは様ではなく、衣食住をはじめ、言語や生活習慣など様々です。これらの多様な文化はデザインやものづくりとも密接な関係があり、モノに対する価値観も文化によって様々です。この講義では、 ①様々な事例から世界をとらえる（比較する） ②様々に違うことを理解する（あたりまえを疑う） ③違うことの意味や理由を考える（物事の本質を見極める） をテーマに、アジアやアフリカ、オセアニアなどに暮らす様々な少数民族の暮らしを紹介します。また、文化という視点から様々なモノを捉え、ヒトとモノとの関係性について理解を深めます。さらに、デザインプロセスの一つとして一般化しつつあるグランテッドセオリーやエスノグラフィーなど、他者理解を目的としたフィールド調査の方法についても体感的に学びます。
達成目標	文化の多様性と共通性について理解できる。 物事を相対化して考えることができる。 他者理解を目的としたフィールド調査の方法を習得することが出来る。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 文化とは（オリエンテーション） 02 発展途上国の世界 03 アフリカの世界（標高4000m以上の地域に暮らす人々） 04 東南アジアの世界（不発弾汚染地域に暮らす人々） 05 オセアニアの世界（石貨のお金を使う人々） 06 文化の捉え方（民族文化と衣装） 07 文化の捉え方（民族文化と刺青） 08 文化の捉え方（民族文化と観光） 09 文化の捉え方（人類学と国際協力） 10 文化の捉え方（美術館と博物館） 11 文化の捉え方（人類学とデザイン） 12 フィールドワークをやってみよう（観察と洞察） 13 フィールドワークをやってみよう（観察と考現学） 14 フィールドワークをやってみよう（民族誌のまとめかた） 15 まとめ（レポート作成）
成績評価基準	学期末のレポート提出 50%、出席を含めた授業参加態度 50% ただし、総授業数の3分の1以上欠席した場合には、レポートの提出資格を失います。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では、講義だけでなく学内での簡単なフィールド調査を実施します。
実務経験を活かした授業	途上国での長期フィールド調査や国際協力事業に携わった教員が実施経験をもとに文化のあり方や途上国の現状について講義する。

科目名	法学(日本国憲法)
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	星野 徹
授業の概要及びテーマ	教職課程の一環として、日本国憲法を題材に「法学」を理解しよう。 憲法解釈を通じて法解釈の在り方、法体系の在り方、そして生活の中で法がどのように機能しているのかを授業を通じて実感できるようにします。 憲法論としては、法の支配とは何か、立憲主義が歴史の中でどのように成り立ち守られてきたか、そして日本国憲法の特殊な成立と性質を、判例を踏まえ理解できるようにします。 教員採用試験の受験希望者については、試験に有益な法律知識を提供します。
達成目標	日本国憲法の基本原則と体系的構造の理解を身につける。 判例解釈を通じて、実践的に法学を理解する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 総論 1 憲法の基本原則とその相互の関係、法の形式 02 総論 2 日本国憲法の成り立ち、明治憲法との比較 03 総論 3 人権保障総論(主体、新しい権利) 04 人権 1 包括的人権 1 (人権の種類、平等権) 05 人権 2 包括的人権 2 (平等権、幸福追求権) 06 人権 3 自由権 1 (精神的自由、表現の自由を除く) 07 人権 4 自由権 2 (表現の自由を除く精神的自由の残り) 08 人権 5 自由権 3 (表現の自由) 09 人権 6 自由権 4 (経済的自由) 10 人権 7 社会権・レポート講評 11 人権 8 人身の自由(刑事手続上の保障) 12 統治 1 統治の基本原則・国会 13 統治 2 国会・内閣 14 統治 3 内閣・裁判所 15 統治 4 裁判所・憲法保障・地方自治 16 試験
成績評価基準	レポートの成績 30%、試験の成績 70%の合計 100%で評価する。 レポートは原則として 11 月中の講義の日に出題し、次の講義の日に出題してもらう。 試験は 15 回の講義の後に、別の日を指定して実施する。 授業の出席日数の不足、出席態度については、減点材料となる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	主に、講義で配布するレジメによるが、レジメで参照を指示するテキストとして、『憲法入門』(有斐閣双書) 伊藤正己著 定価 1,760 円(税込)を指定する。最終試験に穴埋め式で出題することがあるので、購入を勧める。
参考書・参考資料等	『教育六法』、そのほか授業で紹介する書籍。
用具	薄いものでいいので六法、または、憲法の条文のコピー。
履修制限等	授業を真面目に聞く態度さえあれば、他にはありません。
履修希望者への要望・事前準備	法学及び憲法に興味を持って授業に臨むこと。 とくに教員志望の方は、教員になることは、自分が教室の責任者になることを意味するので、生徒・児童の人権を理解し、適切な指導を行うためにも、最低限の教養として法学を身につけ、実践できる思考方法を身につけること。
実務経験を活かした授業	弁護士として、裁判を通じて体験したことを守秘義務の範囲でお話します。 地方公務員の経験もありますので、採用試験に関する情報もお話します。

科目名	科学技術論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	寺島正二郎
授業の概要及びテーマ	今日の我々の生活を支えている科学や技術は、古くからの経験や知恵によって進歩し、多くの試行錯誤によって発展してきた。この科学や技術の進歩は、日常生活から生まれたニーズに基づくものから、その時代の社会的背景に発端を持つものまで様々である。 本講の各講義では、現在の文明社会に欠かすことのできない科学理論や産業技術、生活の必需品に焦点をあて、その発達の歴史や社会への波及効果などについて概説する。これにより科学技術の発展過程を学ぶと共に、今後の技術開発のあり方を考える。
達成目標	科学や技術に興味を持て、科学技術の発展に至った社会的背景や発達の過程、社会的な波及効果などについて理解できる様になること。また、必要な事項について自ら調査を行い、今後の科学技術のあり方について各自の意見が持てること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～03 エネルギーと動力源 04～06 建築、家庭用電気製品（衣食住の“住”） 07～09 食品の加工（衣食住の“食”） 10～12 衣類、生活用品（衣食住の“衣”） 13～15 医療・福祉機器、自然現象、宇宙開発 16 定期試験
成績評価基準	講義ごとに行う出席確認クイズ、レポート、期末試験の結果を総合して評価する。原則として評価の 70～80%は定期試験の得点を用いることとし、レポートなどを課した場合には、最大 20～30%まで評価に取り入れる。 尚、欠席回数に応じて、定期試験とレポート点を合計した得点から（欠席超過回数（5 回以上で 1 回につき））×10%を減点し、最終的な評価点とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	特に指定しない。尚、講義資料は長岡造形大学のパレットにアップロードすると共に、必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の目で見、耳で聴いて、自分で考えることが大切です。まず、出席して自分の視点で感じてください。また、授業中は多くの学生さんに意見を求めます。「分かりません」などと回答せず、間違っていないので「自分の意見」を答えて下さい。 講義中の態度が悪い（私語、内職、居眠り）場合について： 1～2回の注意はしますが、改善が見られない諸君は、理由の如何によらず、それ以降の聴講を認めません。お互いに、大人としてのマナーを守りましょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	哲学
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及び テーマ	哲学といってもあまりにいろいろな立場があるのが現状ですが、ここで学ぶ哲学とは、世界や自己という根本的な問題について深く感じ、考えるという、人類の文化的伝統を指しています。単に頭で考えるというだけではなく、感覚や直観もあわせ、人間にとっての「謎」の領域に迫ろうとする行為について理解を深めます。狭い意味でのアカデミックな哲学のみを対象とはしません。 テーマとしては次の三つがあります。 (1) 伝統哲学における「英知」を理解する。 各伝統哲学が、世界や自己の「根源」について思索し、それぞれの「宇宙ヴィジョン」を展開していたことが語られます。 (2) 近代文明とは何であったのかを哲学思想の観点から理解する。 ここでは、近代ヨーロッパ文明における世界のヴィジョンとはどのようなもので、それがいかに近代文明を形作り、そしてそれが終わりを迎えたかを考えます。 (3) 現代において「英知の伝統」としての哲学は復活したのか。 人類がまったく新しい時代に突入している現状をふまえ、これから未来へ向かっての哲学的な問いのありかたについて考えます。
達成目標	伝統哲学に含まれた英知を理解する。 近代的な世界観の特徴とその限界を理解する。 人類史的な視野の中で根本的問題を思考することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との 関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 イントロダクション——文明のゆくえと哲学の現状について 02～06 西洋近代文明の哲学とその終わりについて 07～13 古典文明期における哲学（ギリシャ、インド、仏教、中国など） 14 新しい文明と哲学 15 まとめと小論文 （進行計画はだいたいの目安です。履修者の状況に応じて若干の変更を行うことがあります）
成績評価基準	期末に、まとめの小論文による試験を行い評価を決定します。出席が3分の2以上を満たす履修者のみ単位付与を検討します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	開講時に指示します。
参考書・参考資料等	必要に応じて指示することがあります。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	哲学に一つの決められた答えはないと言われますが、その時の自分にとって最善の答えはあり得ます。それを探求するために、人類の伝統に学んでみてください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語中級 I
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩、木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、基礎的な問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 400～500 点台を獲得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、発音基礎 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 300 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績評価が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回分で欠席 1 回にカウントする。
テキスト(教科書)	主となるテキスト 開講時に指示します。TOEIC テスト公式問題集の予定です。 単語学習として使用するテキスト(後期も使用) 『新 TOEIC L&R テスト出る語句 1800+』 早川幸治 コスモビア 1,430 円
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修するのは、ブレースメントテストでレベル 3 と判定された学生が対象となります。 レベル 3 の学生は 1 年次前期に英語中級 I の履修が必須となります。 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 なお、クラスの人数に余裕がある場合は、レベル 2 の学生の履修希望を受け付けることがありますので、希望者は担当教員まで相談してください。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語中級Ⅱ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩、木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。
達成目標	TOEIC テストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 400～500 点台を獲得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. 現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 300 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回分で欠席 1 回にカウントする。
テキスト(教科書)	主となるテキスト 最初の授業時に指示します。TOEIC テスト公式問題集の予定です。 単語学習として使用するテキスト(前期から引き続き使用) 『新 TOEIC L&R テスト出る語句 1800+』 早川幸治 コスモピア 1,430 円(前年の英語中級で使用したものがある場合はそれでよい)
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修するのは、ブレースメントテストでレベル 3 と判定された学生が対象となります。 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 なお、クラスの人数に余裕がある場合は、レベル 2 の学生の履修希望を受け付けることがありますので、希望者は担当教員まで相談してください。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語中上級 I
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 500～600 点以上を獲得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 400 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。
テキスト(教科書)	『新 TOEIC L&R テスト出る語句 1800+』 早川幸治 コスモピア 1,430 円(前年の英語中級で使用したものがある場合はそれでよい) この他に、メインとなる教科書を開講時に指示します。TOEIC 公式問題集の予定です。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいっぽんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	自己採点のための赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル 4 と判定された学生 2. 英語中級 I、II の単位を修得した学生 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語中上級Ⅱ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。
達成目標	TOEIC テストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 500～600 点を獲得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. 現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 400 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。
テキスト(教科書)	単語学習として使用するテキスト(前期から引き続き使用) 『新 TOEIC L&R テスト出る語句 1800+』 早川幸治 コスモピア 1,430 円(前年の英語中級で使用したものがある場合はそれでよい) 主となるテキストは後ほど発表します。前期のものを継続して使用する場合があります。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル 4 と判定された学生 2. 英語中級Ⅰ、Ⅱの単位を修得した学生 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple 等)。 TOEIC の学習には、このほかに TOEIC の対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語上級 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及び テーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 550～600 点台を獲得する。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 450 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。
テキスト (教科書)	『新 TOEIC テスト出る語句 1800』 早川幸治 コスモピア (英語中上級で使用したもの) ただし、受講者と相談の上変更 することがあります。 このほか『公式問題集』を使用する予定 (詳細は初回授業にて)。3000 円 + 税
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいっぽんよくわかる』 静哲人 テイエス企 画 ☆その他 (英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修できるのは、原則として英語中上級 I、II の単位を修得した学生、もしくはすでに TOEIC で 500 点以上を 獲得したことのある学生とします。 履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要 望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声につ いての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語上級Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及び テーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 550～600 点台を獲得する。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. 現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. TOEIC 模擬テスト 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 50% ただし、原則として TOEIC スコア 450 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントする。
テキスト (教科書)	英単語の本として、『新 TOEIC テスト出る語句 1800』 早川幸治 コスモピア (英語中上級で使用したもの) ただし、 受講者と相談の上変更することがあります。
参考書・参考資料等	主となる教材は後ほど発表します。前期と同じものを継続して使用場合があります。 ☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいっぽんよくわかる』 静哲人 テイエス企 画 ☆その他 (英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	赤ペン等を持参する。
履修制限等	この科目を履修できるのは、原則として英語中上級Ⅰ、Ⅱの単位を修得した学生、もしくはすでに TOEIC で 500 点以上を 獲得したことのある学生とします。
履修希望者への要 望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声につ いての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅠ
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及びテーマ	リスニングにやや重点を置きつつ、基礎的な会話練習を行います。受講者は、自分の興味や意見を、英語を用いてシェアしていきます。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。海外旅行に足りる程度の、初歩的なスピーキング能力を獲得します。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Class 1: Introductions, Topic 1 Family Class 2: Topic 2 Food Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers Class 4: Topic 4 House & Home Class 5: Topic 5 Music Class 6: Topic 6 Transportation Class 7: Topic 7 Sports Class 8: Topic 9 Best Friends Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School Class 11: Topic 15 Money Class 12: Topic 12 Vacation Class 13: Topic 12 Vacation Part II Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題、課題など 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Topic Talk, Second Edition EFL Press 本体 2500 円程度
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	プレースメントテストでレベル1と判定された1年生が受講するクラスです。 クラスの定員を35名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が5名未満となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来る必要があります。また、分からない英語があれば積極的に質問してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及びテーマ	リスニングにやや重点を置きつつ、基礎的な会話練習を行います。受講者は、自分の興味や意見を、英語を用いてシェアしていきます。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。受講者がネガティブな感情なしに英語を学べるよう、モチベーションを上げていきます。海外旅行に足りる程度の、初歩的なスピーキング能力を獲得します。前期からのある程度の上達をめざします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Class 1: Topic 16 Restaurants Class 2: Topic 17 Animals Class 3: Topic 18 Shopping Class 4: Topic 19 Health & Fitness Class 5: Topic 20 Fashion Class 6: Topic 21 Travel Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage Class 10: Topic 28 Beliefs Class 11: Topic 29 Crime Class 12: Topic 30 Opinions Class 13: Topic 24 Holidays Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
成績評価基準	50% クラスへの参加度 10% 課題 (Eメール) 15% 英語の使い方 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Topic Talk, Second Edition EFL Press 本体 2500 円程度
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	プレースメントテストでレベル1と判定された1年生が受講するクラスです。 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来る必要があります。また、分からない英語があれば積極的に質問するようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅢ
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	トピックに関連したたくさんのタスクをこなすことで、授業の後にはそのトピックについて話すことが楽に感じられるようになります。そのトピックに関連した単語やフレーズも学びます。英語を学ぶことへのネガティブな感覚をなくし、モチベーションを上げていきます。 この授業の目的は、授業の間英語だけを話し、第二言語として英語を使うことに自信をつけることです。海外旅行に十分な程度の基礎的なスピーキングの能力を獲得します。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Week 1: Introductions, How are you? Nice to meet you. Can you say that again? Week 2: Nice weather, isn't it? I love hip-hop! Week 3: My favorite movie is..... What time is it? Week 4: Would you try kayaking? Do you have any brothers? Week 5: She's pretty smart. I love your shirt! What's she wearing? Week 6: When do you get up? When do you get there? What do you do first? Week 7: What are you doing? What's your place like? Where can I get a lamp? Week 8: Where's the mall? Take a left. How much is coffee? Week 9: Will you take \$20? Do you ever buy books? Your phone is so cool! Week 10: Do you eat much fruit? We need onions. Week 11: Do you ever eat a big lunch? How does it taste? Week 12: I had a great weekend. What time did you call? You won't believe this! Week 13: What are your plans? Week 14: Class summary Week 15: Class summary
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題・課題など 25% 口頭テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Speak Now 2 Oxford 本体 2990 円
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル2と判定された1年生 2. 同テストでレベル1となった2年生で、1年時に英語オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱを履修済みであること クラスの定員を35名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が5名未満となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来る必要があります。また、分からない英語があれば積極的に質問するようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅣ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。受講者がネガティブな感情なしに英語を学べるよう、モチベーションを上げていきます。海外旅行に十分な程度の、ベーシックなスピーキング能力を獲得します。前期からのある程度の上達をめざします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Week 1: Introductions. Where are you from? I'm tall and thin. Alice is more serious. Week 2: All of my friends text. I've never had Thai food. First, grill the bread. Week 3: The service is great. Are you ready to order? Week 4: I have a sore throat. What should I do? I'd love to try that! Week 5: Soccer is more exciting! I can write pretty well. I'd have to have.. Week 6: I travel for free. Is the manager there? Week 7: That sounds fun! I'd love to go. I'm sorry, but I can't. Week 8: Sorry I'm late. Did you go alone? Which do you prefer? Week 9: You must get a visa. When is the next train? Week 10: I usually wear..What do you think? Week 11: Can you do me a favor? What is it used for? Week 12: I think it's fun. I feel the same way. Week 13: What would you do? Then what happened? Week 14: Summary Week 15: Summary
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題、課題など 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Speak Now 2 Oxford 本体 2990 円程度
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル2と判定された1年生 2. 同テストでレベル1と判定された2年生で、1年時に英語オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱを履修済みであること クラスの定員を35名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が5名未満となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来ることが必要です。また、英語でわからないことがあれば質問をするようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅤ
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Paul Edwards, Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、日常会話程度の話す能力を獲得します。 このクラスでは、授業中英語のみを話し、第二言語としての英語を使うことに自信をつけていきます。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Summer Vacation Stories Week 2: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 1 Week 3: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 2 Week 4: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 1 Week 5: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 2 Week 6: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 1 Week 7: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 2 Week 8: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 1 Week 9: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 2 Week 10: Introducing Presentation Project Week 11: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 1 Week 12: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 2 Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Moulinos) Week 1. Introduction Week 2. Unit 1: Guess Where I' m from. Week 3. Unit 2: Comfy Seats. Week 4. Unit 3: A Trip to the Art Gallery; Unit 4: My Quirky Family. Week 5. Unit 5: Scaredy Cat. Week 6. Unit 6: The Commute. Week 7. Unit 7: A Close Shave. Week 8. Unit 8: Excuses, Excuses. Week 9. Unit 9: Moving On. Week 10. Unit 10: Shop till You Drop. Week 11. Unit 11: Home Sweet Home. Week 12. Unit 12: The Life of the Party. Week 13. Unit 13: Aussies are So Cool. Week 14. Unit 14: World' s Worst Cook; Unit 15: Lucky Dog. Week 15. Final Examination. (Edwards) Week 1: Course Introduction/ Writing Student Intro Cards Week 2: Make Questions/ Interview a Partner/ Write Info Week 3: Introduce Partner in small groups/ Golden Week chat Week 4: Introduce Partner to Class/ Ask Questions Week 5: Introduce Partner/ Ask Questions Week 6: Text unit: chosen by class from units 1-6 Week 7: Unit continued-speaking and listening Week 8: " " " " Week 9: Next unit: chosen by class Week 10: Unit continued-speaking and listening Week 11: " " " " Week 12: Next unit: chosen by class Week 13: Unit continued-speaking and listening Week 14: " " " " Week 15: Written test (and possible oral oral test)
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題、課題など 25% 最終テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	(Drier) Let' s Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax)

	(Moulinos) Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. (Edwards) Take It Easy by Herman Bartelen Cengage Learning ¥2200
参考書・参考資料等 用具	
履修制限等	この科目を履修できるのは、プレースメントテストでレベル2と判定された学生が対象となります。 なお、英語オーラルコミュニケーションVとあわせて、VIを履修登録してください。 クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 私はこのクラスを楽しみにします。私はこの授業を英語における実験だと見ています。という意味は、スケジュールは準備していますが、とりあえずのものだということです。つまり、学期の間、クラスの雰囲気や、内容をこなすのに必要な時間を考慮して、変更を行うことがあるということです。ユニットの順番を変えたり、どこかのユニットを飛ばしたり、リストにない教材を追加したりします。私は自分の経験をみなさんとシェアしたいと考えています。そして皆さんも、自分の経験を私やクラスメートとシェアする準備をしておいてほしいと思います。念のため辞書を持って、そして「元気」も持ってきましょう！ (Moulinos) 毎回のクラスに、中辞典以上の辞書を持って、ポジティブな気持ちで参加しましょう。 (Edwards) このスケジュールは仮のもので、クラスのサイズや、必要な時間によって変わることがあります。また役に立つと思えば、追加の教材を用いることがあります。教科書の内容の他に、自分のこれまでのことや、経験、休暇や週末のプラン、などについても話をします。その話題はリアルで、意味のあるものです。皆さんの考えやアイデアをシェアしてください。英和／和英辞典を忘れずに持参してください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅥ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Paul Edwards, Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、日常会話程度の話す能力を獲得します。前期よりもさらに上達することをめざします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Summer Vacation Stories Week 2: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 1 Week 3: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 2 Week 4: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 1 Week 5: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 2 Week 6: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 1 Week 7: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 2 Week 8: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 1 Week 9: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 2 Week 10: Introducing Presentation Project Week 11: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 1 Week 12: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 2 Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Moulinos) Week1. Introduction Week2. Unit 1: Something Cool. Week3. Unit 2: My Humble Abode. Week4. Unit 3: Food Cravings. Week5. Unit 4: Who We Are. Week6. Unit 5: Corporate Ladder. Week7. Unit 6: Another World. Week8. Unit 7: Big Worry; Unit 8: Unplugged. Week9. Unit 9: The Remote. Week10. Unit 10: Clean Freak. Week11. Unit 11: No Such Thing. Week12. Unit 12: Like Chalk and Cheese. Week13. Unit 13: Hang in There. Week14. Unit 14: The Time of My Life; Unit 15: It's a Guy Thing. Week15. Final Examination. (Edwards) Week 1: Course Intro/ Talking about summer holidays/ Student Intros Week 2: Week 1 activities continued Week 3: Text unit: chosen from Units 7-12 Week 4: Unit continued-speaking and listening Week 5: Halloween Lesson Week 6: Finish Halloween activity/ Text continue Week 7: Next unit: chosen by class Week 8: Unit continued-speaking and listening Week 9: Christmas Lesson Week 10: Holiday Chats/ Finish Christmas activity Week 11: Unit continued-speaking and listening Week 12: Next unit: chosen by class Week 13: Unit continued-speaking and listening Week 14: " " " " Week 15: Written test (and possible oral test)
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題、課題など 25% 最終テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	(Drier) 教科書は使いません。 (Moulinos)

	Impact Conversation 2 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. (Edwards) Take It Easy by Herman Bartelen Cengage Learning ￥2200
参考書・参考資料等 用具	
履修制限等	ブレースメントテストでレベル2と判定された学生が対象となります。 前期のVとあわせて履修登録をしてください。 クラスの定員を35名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が5名未満となったクラスは開講しません。
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 英語オーラルコミュニケーションVでは会話を通したコミュニケーションをもっぱら扱いましたが、このクラスでは、さらに自分の意見を発表することにも焦点を置き、インフォーマルおよびフォーマルな発表のスキルも学習します。最終テストはおそらく口頭プレゼンテーションになる可能性が高いです。オーラルコミュニケーションVと同じように、スケジュールは変更することがあります。変更は前期よりも大きくなるでしょう。この授業ではみなさんに、授業の内容や、アクティビティー、進め方についていろいろな意見を聞くことになるからです。みなさんが積極的に意志決定に参加して、このクラスが最善なものとなるよう意見をくれることを期待します。なお、このクラスでは教科書を買う必要はありません。ただし、辞書とたくさんの「やる気」を持ってくることをおすすめします。 (Moulinos) 毎回のクラスに、中辞典以上の辞書を持って、ポジティブな気持ちで参加しましょう。 (Edwards) このスケジュールは仮のもので、クラスのサイズや、必要な時間によって変わることがあります。また役に立つと思えば、追加の教材を用いることがあります。教科書の内容の他に、自分のこれまでのことや、経験、休暇や週末のプラン、などについても話をします。その話題はリアルで、意味のあるものです。皆さんの考えやアイデアをシェアしてください。 また二つの西洋のイベント、ハロウィーンとクリスマスについても研究し、楽しみます。 英和／和英辞典を忘れずに持参してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅦ
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Brian Drier, Lance Latham
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、基礎的レベルで、自分の意見を表現できる程度のスピーキング能力を獲得します。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Introductions (Professor; Class; Students) Week 2: Getting Acquainted (Let' s Chat, Unit 1), Part 1 Week 3: Getting Acquainted (Let' s Chat, Unit 1), Part 2 Week 4: Experiences (Let' s Chat, Unit 2), Part 1 Week 5: Experiences (Let' s Chat, Unit 2), Part 2 Week 6: Sport & Leisure (Let' s Chat, Unit 3), Part 1 Week 7: Sport & Leisure (Let' s Chat, Unit 3), Part 2 Week 8: Shopping & Money (Let' s Chat, Unit 4), Part 1 Week 9: Shopping & Money (Let' s Chat, Unit 4), Part 2 Week 10: Food (Let' s Chat, Unit 5), Part 1 Week 11: Food (Let' s Chat, Unit 5), Part 2 Week 12: Travel (Let' s Chat, Unit 6), Part 1 Week 13: Travel (Let' s Chat, Unit 6), Part 2 Week 14: Movies & Television (Let' s Chat, Unit 7) Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Latham) Week 1: Introduction to Course Week 2: Oral communication exercises Week 3: Oral communication exercises Week 4: Oral communication exercises Week 5: Oral communication exercises Week 6: Oral communication exercises Week 7: Oral communication exercises Week 8: Oral communication exercises Week 9: Oral communication exercises Week 10: Oral communication exercises Week 11: Oral communication exercises Week 12: Oral communication exercises Week 13: Oral communication exercises Week 14: Review of Textbook Materials Week 15: Oral Assessment
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題・課題など 25% 最終テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	教科書は最初の授業時に指示します。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル3または4に判定された学生 2. レベル3か4ではない場合は、英語オーラルコミュニケーションⅤとⅥを履修済みであること クラスの定員を 35 名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が 5 名未満 となったクラスは開講しません。 なお、Drier 先生のクラスは、2019 年度の英語オーラルコミュニケーションⅤの同先生のクラスとほぼ同じ内容です。2019 年にこれを受講した人は、他の教員のクラスを選ぶか、もしくは、同じ内容であることを了解の上、Drier 先生のクラスを履修してください。(2020 年のクラスについては該当しません)
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 私はこのクラスを楽しみにします。私はこの授業を英語における実験だと見ています。という意味は、スケジュールは準備していますが、実験的だということです。つまり、学期の間、クラスの雰囲気や、内容をこなすのに必要な時間を考慮して、変更を行うことがあるということです。ユニットの順番を変えたり、どこかのユニットを飛ばしたり、リストにない教材を追加したりします。私は自分の経験をみなさんとシェアしたいと考えています。そして皆さんも、自分の経験を私やクラスメートとシェアする準備をしておいてほしいと思います。念のため辞書を持って、そして「元気」も持ってきましょう！ (Latham)

	毎回、会話スタイルの英語を使うことになりましたが、リスニング、リーディング、ライティングの要素もあります。スケジュールは変更されることがあります。普通の筆記具やノートのほか、紙の辞書または電子辞書を持参してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅧ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Brian Drier, Lance Latham
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、自分の意見を発表できる基礎的なスピーキング能力を獲得します。前期よりさらに発展をめざします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Summer Vacation Stories Week 2: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 1 Week 3: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 2 Week 4: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 1 Week 5: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 2 Week 6: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 1 Week 7: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 2 Week 8: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 1 Week 9: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 2 Week 10: Introducing Presentation Project Week 11: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 1 Week 12: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 2 Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Latham) Week 1: Oral communication exercises Week 2: Oral communication exercises Week 3: Oral communication exercises Week 4: Oral communication exercises Week 5: Oral communication exercises Week 6: Oral communication exercises Week 7: Oral communication exercises Week 8: Oral communication exercises Week 9: Oral communication exercises Week 10: Oral communication exercises Week 11: Oral communication exercises Week 12: Oral communication exercises Week 13: Oral communication exercises Week 14: Review of Textbook Materials Week 15: Oral Assessment
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題・課題など 25% 最終テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	(Drier) 授業開始時に指示があります。 (Latham) 授業開始時に指示があります。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	この科目を履修できるのは、次のいずれかの条件となります。 1. プレースメントテストでレベル3または4に判定された学生 2. レベル3か4ではない場合は、英語オーラルコミュニケーションⅤとⅥを履修済みであること(Ⅶの受講は必ずしも必要ではありません) クラスの定員を35名としています。それを超える履修希望者があった場合は、抽選をおこない、外れた学生には他のクラスに履修を変更いただくことがあります。 また、履修登録締切日において、履修登録者が5名未満となったクラスは開講しません。 なお、Drier先生のクラスは、2019年度の英語オーラルコミュニケーションⅥの同先生のクラスとほぼ同じ内容です。2019年にこれを受講した人は、他の教員のクラスを選ぶか、もしくは、同じ内容であることを了解の上、Drier先生のクラスを履修してください。(2020年のクラスについてはこれは該当しません)
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 英語オーラルコミュニケーションⅦでは会話を通したコミュニケーションをもっぱら扱いましたが、このクラスでは、さ

	らに自分の意見を発表することにも焦点を置き、インフォーマルおよびフォーマルな発表のスキルも学習します。最終テストはおそらく口頭プレゼンテーションになる可能性が高いです。オーラルコミュニケーションⅦと同じように、スケジュールは変更することがあります。変更は前期よりも大きくなるでしょう。この授業ではみなさんに、授業の内容や、アクティビティー、進め方についていろいろ意見を聞くことになるからです。みなさんが積極的に意志決定に参加して、このクラスが最善なものとなるよう意見をくれることを期待します。なお、このクラスでは教科書を買う必要はありません。ただし、辞書とたくさんの「やる気」を持ってくることをおすすめします。 (Latham) 毎回、会話スタイルの英語を使うことになりましたが、リスニング、リーディング、ライティングの要素もあります。スケジュールは変更されることがあります。普通の筆記具やノートのほか、紙の辞書または電子辞書を持参してください。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	基礎ゼミ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	板垣順平、市川治郎、◎金山正貴、北 雄介、小松佳代子、竹田進吾、徳久達彦、福本 壘、森本康平
授業の概要及びテーマ	本学における初年次教養科目として、デザイナーやクリエイター、アーティストとしての資質を高めるために必要な知識や物事に対する捉え方などを実践的に学びます。具体的には、学科の枠を超えたグループをつくり、体験を通じて他者や自身を含めた人が抱える問題やニーズの抽出方法を学び、交流を通じてその解決につながる方法を考えながら、2年次以降の制作活動や実社会で活かせるような学びを得ることが目的です。
達成目標	以下の5つの能力・取り組み姿勢を身につけることを目標とする。 (1) 他者理解 関係する人、社会が求めているものを、観察や対話のなかで理解することができる。 (2) 協調性 学科の枠を超えて様々な価値観や能力を尊重し、自律的に他のメンバーと協調しながら課題に取り組むことができる。 (3) 構想力 造形力を生かして問題を解決するために、自らの課題を設定することができる。 (4) 発想力 ものごとを多面的に捉えて新たな発想でアイデアやコンセプトを考えることができる。 (5) 発信力 自分の意見や考えを論理的にまとめて他者に伝えることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	グループワークを基本に関連する講義を組み合わせ実施します。 01 ガイダンス 02-03 講義キャラバン 04-05 テーマ説明・ヒアリング調査 06-07 POV 作成 08-09 ヒアリング調査 10-11 中間発表・アイデア展開 12-13 研究室キャラバン・プレゼンに向けた準備 14-15 プレゼンテーション ※授業時間や内容、構成等は変更になる場合があります。 ※開講時期は9月～11月を予定しています。
成績評価基準	グループの取り組み及び成果物(個人レポート)55%、受講態度 45% 欠席や遅刻は認めません。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもあります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業において適宜プリントを配付します。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示します。
用具	必要に応じて適宜指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形実習で養う造形力と並び、本授業で扱う他者理解などの基礎的な能力は、大学での学修、制作や将来社会で自分の力をどのように活かすか見定める上でも重要なものとなるため、積極的な姿勢で参加してください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	キャリア計画実習Ⅰ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎菅野 靖、椎名勇太、高橋健太郎、横部延寿
授業の概要及びテーマ	大学卒業後は社会に出て仕事をする必要があります。その時にどのように社会の中で役割を担うのか、どのようなポジションで社会人としてのキャリアをスタートさせるのかが大切です。その事を考えるための授業です。正解がある問題ではありませんが、この授業が考えるきっかけとなることを希望します。 造形学部で学ぶ事、そこから世の中で求められる役割を考えます。そのために社会で活動している先輩方の話を聞く場を多く設けています。また今後の社会に出るためにどのような準備が必要になるのか、そのために具体的な行動について学びます。
達成目標	自身が社会で求められる能力を理解する。 自身の将来の目標を設定する。 2 年次終了時点での希望進路を明確にする。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション 02 キャリアを決定するまでのスケジュール 03 インターンシップ報告会 04 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 1 05 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 2 06 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 3 07 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 4 08 まとめ①／自身の選択肢にはどのようなものがあるか 09 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 1 10 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 2 11 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 3 12 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談 4 13 まとめ②／自身の選択肢の中で現時点で選びたいものは何か 14 選んだ選択肢を実現するための場を探す方法（業界研究・職種研究） 15 まとめ③／自身のキャリアを見据えた3 年次からのコース選択
成績評価基準	・出席回数が2/3 以上でない場合は、原則として単位を与えません。 ・授業時間内で書いて提出してもらうレポートがあります。このレポートを元に成績をつけます。 ・レポートの提出と配点については初回授業で案内します。
出席・遅刻の基準	出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。出席の読み取りを忘れないように注意してください。
テキスト（教科書）	必要に応じて随時準備し配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。
実務経験を活かし た授業	

科目名	キャリア計画実習Ⅱ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎菅野 靖、椎名勇太、高橋健太郎、横部延寿
授業の概要及びテーマ	自らの可能性を発見し、世の中のどのような場所で活躍したいかを考える授業です。 自らが希望を持った社会にどうすれば出ることができるのか学んでいきます。 また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力を身につけていきます。 上記を通し、社会で働くということが何なのかをしっかりと学び、今後のキャリアを定めることを目標とします。
達成目標	社会に出る工程を理解し自身のスケジュールを構成できる。 世の中に挑むために準備することが必要な内容を理解できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション 02 社会と自分を知る 03 「聴く」「伝える」とは 04 SPI 試験対策 05 卒業生パネルディスカッション(1) 06 卒業生パネルディスカッション(2) 07 インターンシップ実践のためのマナー 08 振り返り 09 書いて伝える(1) 10 書いて伝える(2) 11 話して伝える 12 内定者報告会 13 グループワークとは 14 労働市場、労働法等について 15 まとめ
成績評価基準	・ 出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。 ・ 通常レポート 10点×4回(小点40点) ・ 中間、最終レポート 30点×2回(小点60点) 合計100点
出席・遅刻の基準	出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。出席の読み取りを忘れないように注意してください。
テキスト(教科書)	必要に応じて随時準備し配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	論理学
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	市野敬介
授業の概要及びテーマ	日本語でディベートを行います。主張を、根拠をともなって伝え、議論をする授業です。現代の社会課題を論題としたディベートの準備および試合を行います。論理的に考えること、論理的に表現することなどについて、ディベートを通じて体験していただきます。前半のマイクロディベートでは、身近な社会問題で議論を行います。後半のディベート実戦では、本格的にチームを結成し、準備および試合を行います。
達成目標	講座を終えた時に以下のことができるようになっていることをゴールとします。 (1) テーマ(論題)に対して多面的に考えて、主張を組み立てることができる (2) 説得力のある話し方で主張・反論ができる (3) 根拠が明確でない議論を聞いて、質問することができる (4) 肯定側・否定側の双方の意見をよく聞いて、どちらの議論が優勢だったか判断を下すことができる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 講座の全体像／デザイン×ディベートとは 02 モデルディベート視聴／メモの取り方／ルール説明 03 論題発表／マイクロディベートをやってみる 04 メリット・デメリットを考える／立論の3要件を考える 05 シナリオを活用したマイクロディベート 準備 06 シナリオを活用したマイクロディベート 実戦 07 シナリオを活用したマイクロディベート 実戦 08 ディベートの試合 準備 09 ディベートの試合 準備 10 ディベートの試合 準備 11 ディベートの試合 実戦 12 ディベートの試合 実戦 13 ディベートの試合 実戦 14 ディベートの試合 実戦 15 ディベートの試合 実戦(受講人数によって変動します)
成績評価基準	(1) ディベートの説明・講義 授業への参加、課題に取り組む姿勢、発言・発表の内容などを評価します。ディベートに関する説明や技法を活用する演習は参加型・対話形式で行います。 (2) ディベートの試合 試合の中で行う立論や反論などのスピーチの内容、質疑応答の内容や聞き方答え方で評価します。それだけではなく、審判も行っていただきますので、その審査や選手へのフィードバックの内容も評価をします。 (3) 身に着いた力に関する自己評価 最終的に講座を通じてご自身でどんな力が身に着いたのか、どんな成長があったのかの振り返りを、理由をつけて記述していただきます。その内容と理由付けで評価します。 概ね(1) 10%、(2) 40%、(3) 50% の割合で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	講義の中でお渡しします
参考書・参考資料等	
用具	筆記用具(できれば、3色のボールペンをご用意ください) 情報機器(スマートフォンやノートパソコン)
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業内で様々な質問や課題を出します。「不正解」があるものではありませんので、積極的に回答してください。ディベートの試合はグループ活動です。限られた時間の中であらゆることを考えて、スピーチをする準備をしていただきます。役割分担や協力をしあいながら活動してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	統計学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 晃
授業の概要及びテーマ	ものづくりやデザインに役立つ統計学を学びます。統計に必要な数字やデータ間の関係性を客観的に明らかにする方法だけでなく、実践的な例題を通じてデータが持つ「意味」を考える機会とします。講義では、「データから読み取れる特徴、集計、整理する方法」、「一部のデータから全体を推計する方法」、「データ間の関係性を分析する方法」を学び、受講者の興味関心に基づき、「制作、研究、仕事、日常生活に統計学が役立つイメージの理解」に結びつけることを目標にします。
達成目標	・「データから読み取れる特徴、集計、整理する方法」を理解していること ・「一部のデータから全体を推計する方法」を理解していること ・「データ間の関係性を分析する方法」を理解していること ・統計学が制作、研究、仕事、日常生活に役立つイメージを持っていること
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 データの要約と視覚化 03 変数の相関 04 正規分布 05 母集団と標本の関係 06 標本統計 07 推定 08 検定 09 データ分析 (EXCEL を使った分析) 10 データ分析 (R を使った分析) 11 データ分析 (回帰分析) 12 データ分析 (多変量解析) 13 データ分析 (データセットの使い方) 14 データ分析 (まとめ) 15 期末試験及び講評
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 期末試験：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	やさしい内容の統計学を扱った書籍は様々ありますが、担当教員が推薦する実践的かつ実用的な参考書は以下です。本講義を受けて統計学に興味を持った方は是非読み進めてみてください。 ・久保 拓弥(著), データ解析のための統計モデリング入門 一般化線形モデル・階層ベイズモデル・MCMC (確率と情報の科学), 岩波書店, 3,800 円 + 税
用具	・電卓 ・授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	「統計学」と聞くと難しそうなイメージを持つ方が多いと思います。数学が苦手な受講者にもできるだけわかりやすく解説し、みなさんのものづくりやデザインに活かせるように授業を進めていきたいと思います。教科書の例題だけを解くような授業ではなく、身近なモノの重さを図ったり、生活や制作に関わる実データを扱ったりと実践的な講義内容を準備しておりますので、是非、積極的な姿勢で受講頂ければと思います。
実務経験を活かし た授業	製品・サービス開発において統計を取り扱った実務経験があり、環境省の調査委員会で統計学のアドバイザーを務めた経験のある教員が、その経験を活かして、ものづくりやデザインに役立つ統計学について講義する。

科目名	情報リテラシー
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	横田秀珠
授業の概要及びテーマ	インターネットが普及し情報社会が加速しています。氾濫する情報を検索するニーズが高まりました。またスマートフォンの台頭で、情報を発信する事も容易になりました。更にソーシャルメディアで気軽に情報を拡散する事も可能になり、プライバシー漏洩やセキュリティの重要性など様々な問題点も露呈してきました。情報の検索手法や情報の発信方法、ソーシャルメディアなどの使い方と留意点などを体得し、インターネットの仕組み等を総合的に習得することを目的にした科目です。
達成目標	検索エンジンやソーシャルメディアなどインターネット上の様々なサービスを理解すること、情報を受信する際と発信する際の注意点、プライバシーの管理やセキュリティの重要性を通して情報社会のあり方を説明できるようになること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 情報リテラシーを学ぶ理由 02 インターネット概論と歴史 03 検索エンジンの変遷と進化 04 ソーシャルメディアの台頭 05 スマートフォン普及と課題 06 キュレーションが必要な訳 07 多様な連絡手段とインフラ 08 位置情報で激変の生活習慣 09 TVの衰弱と動画メディア 10 様々な動画とネット生配信 11 苦戦する紙媒体と電子書籍 12 ラジオと音声技術の未来性 13 画像認識の技術と流出問題 14 クラウド化と進化する技術 15 セキュリティとデマや詐欺 16 期末試験
成績評価基準	講義レポート 40% 期末試験 60% 講義レポートは、講義の内容をブログやソーシャルメディア等でまとめるだけでなく、自分の意見や考察を含めた投稿を評価に取り入れる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	特に指定しない。 授業に用いる資料は、パレットからダウンロード可能。 授業までに必要に応じ各自で予習しておくこと。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	1) 講義資料はパレットに掲載するので、必要に応じて各自で予習する 2) パレットの資料や講義まとめブログ・Youtube で復習を徹底する 3) 質問は専用LINE 公式アカウントのメッセージなどで受け付ける 4) 学習した内容をブログやソーシャルメディアなどで公開レポートにする
実務経験を活かし た授業	

科目名	現代社会論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	広田秀樹
授業の概要及びテーマ	宇宙の歴史は約 138 億年、地球の歴史は約 46 億年、人類の歴史は約 700 万年といわれています。想像を絶する長い時間の流れの中で人間は、制度、慣習、文化、思想などを形成し変化させています。現代社会も同様です。本授業では、現代社会を徹底して多角的長期的視点から学習します。
達成目標	現代社会を多角的視点から考える訓練の中で、「表面的な現象」を観察しながら「真実や本質」を見抜く思考力を身に付けることを達成目標とする。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 宇宙史からの現代社会の考察 02 地球史からの現代社会の考察 03 人類史からの現代社会の考察 04 過去・現在・未来という時間の流れからの現代社会分析の手法 05 社会の中の「制度・慣習・文化・思想」 06 国際政治 07 国際経済 08 グローバリゼーション 09 テクノロジーの未来 10 国内政治 11 国内経済 12 国内人口構造と社会の激変 13 社会の変化とライフスタイルの変化 14 自由とライフスタイル超多様性の関係 15 まとめ 16 試験
成績評価基準	レポート提出、期末試験、授業への受講態度・意欲をもとに評価します。 レポート 20%、期末試験 60%、授業への受講態度・意欲 20%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト(教科書)	毎回講義プリントを配付します。
参考書・参考資料等	浅川公紀 『国際政治の構造と展開』 武蔵野大学出版会 2014 年
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、授業計画の各回のテーマに関して、予習・復習を行うことが望ましい。 授業は常に深く考えながら参加し、質問、意見を活発に述べて下さい。 講義に参加する上での基本的なマナー、礼儀礼節をお願いします。
実務経験を活かし た授業	

科目名	社会起業
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 壘
授業の概要及びテーマ	日本には社会が抱える様々な問題があります。社会問題の解決には、「志と行動力のある人」、「効率的な仕組み」、「利便性や品質の高い物品」等が必要となります。講義では、これらを支える一つの手段として「起業」が位置づけられ、その手続きとしての「理論」および事例を通じた「実務」について学び、議論をし、理解を深めます。様々な社会問題を背景に社会起業の全体像を学び、興味関心に基づいて社会起業の提案・計画を行えることを目標にします。
達成目標	・社会起業の全体像を理解していること ・「起業」が「就職活動」と並ぶ、「進路」を決める手段の一つであると理解していること ・自身が興味のある社会問題をテーマに起業の提案・計画を行えること
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 導入：授業の取り組みのイメージを確認 02 起業と社会事業の実践紹介：課題演習のイメージを確認 03 社会起業家の事例研究① 04 社会起業家の事例研究② 05 起業の手続きと事業運営の実態 06 社会起業における理念：原体験の記述 07 試作・試行・プロトタイピング 08 販路開拓・マーケティング 09 生産・販売体制の構築 10 PR:Public Relations 11 資金と税金 12 課題演習①：社会問題を解決するビジネスプランの提案と起業計画 13 課題演習②：社会問題を解決するビジネスプランの提案と起業計画 14 課題発表・講評 15 課題発表・講評・まとめ
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 課題演習に対する提案：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	参考となる書籍や資料は世の中に多くありますが、社会起業において重要なのは「実践すること」になります。そのため、実践の事例に基づいて授業内で適宜紹介します。
用具	授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	みなさんの進路にとって「起業」とは「就職活動」と並ぶ一つの手段に位置づけられます。生きていく糧を得るためには、何らかの手段で社会に役立つ関わりが必要となります。どこかの会社組織に所属した場合も「経営」や「新規事業」に関わることも考えられますし、作家を目指す場合にも制作活動を含めた事業を成立させる必要があります。履修後の成果は、上記のどちらのケースにおいても、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。 そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。私自身、企業経営者であり、起業経験者ですので、失敗も含めた「体験談」や「考え」を講義の中で伝えたいと思います。
実務経験を活かした授業	起業及び企業経営、社会事業の実践経験のある教員が、その経験を活かして、社会問題を解決する事業と起業計画の考え方について講義する。